

「夏休みの子どもたちが危ない」 「安心・安全」を口実に基地見学 日本共産党市議団が抗議と申し入れ（7月12日・18日）

中村区役所（中村区の安心・安全で快適なまちづくり協議会）が、小中学生と保護者を対象に、航空自衛隊小牧基地の見学バスツアーを募集している問題で、日本共産党市議団は、12日の調査をふまえ18日に中村区役所の堀場和夫区長に抗議の申し入れを行いました。

区役所が基地見学のバスツアー？

このツアーは、「あんあん親子ふれあいバスツアー」（8月7日実施）。中村区役所は、「ツアーの趣旨は防災。被災地支援の話を聞く」と言いますが、子ども会などに配布された募集チラシにそんなことは書かれていません。「基地では航空機をとて近くで見たり食堂で昼ごはんを食べられる」と書き、イラクへも派遣されたC130輸送機の絵が大きくのっ



調査する、さはしあこ・山口清明・わしの恵子市議と藤井ひろきさん（12日）

ています。こうした広報内容については、堀場区長も「軽率だった」と言いました。

自衛隊の本来任務はあくまで戦闘行為

自衛隊は、戦力の不保持を定めた憲法九条に違反するとの見解もある存在です。大規模災害などの場合に、存在している自衛隊に、国民の安全のために活動してもらうことは当然ですが、自衛隊の本来任務はあくまで戦闘行為の遂行です。そのこと抜きの被災地支援の業務だけに限定した基地見学とはなりえません。区役所が、小中学生を対象に自衛隊の存在を一方的に肯定するかのような企画を行うべきではありません。



申し入れ、抗議する、岡田ゆき子・山口清明・田口一登・わしの恵子市議（18日）



区役所ロビーの案内板

名古屋市中村区長 堀場 和夫 様

2012年7月18日

日本共産党名古屋市会議員団
団長 わしの恵子

中村区役所による自衛隊小牧基地見学バスツアーに強く抗議する

広報なごや平成24年7月号に、夏のイベントのひとつとして「あんあん親子ふれあいバスツアー」の案内が掲載されている。区内在住の小・中学生とその保護者を対象にしたバスツアーだが、ツアーの内容は、中村消防署での放水体験と、自衛隊小牧基地の見学・体験となっており、申込みや連絡先は、中村区役所まちづくり推進室となっている。

あんあん親子ふれあいバスツアーは、中村区の安心・安全で快適なまちづくり協議会が主催する恒例行事であり、「被災地支援の話を聞いたり、防災について勉強できる」（改定後の中村区ホームページより）企画とされ、区内の子ども会などに案内したという。

しかしながら「自衛隊基地の見学」を事実上、区役所が主催し、主に小学生を対象にした行事として行うことは問題だと言わざるを得ない。

第一に、自衛隊は、戦力の不保持を定めた日本国憲法の下では憲法違反であるとの見解もある存在である。中学校の教科書でも自衛隊を全面的に肯定するような記述はされていない。小中学生向けに自衛隊の存在を一方的に肯定する価値判断を伴う企画を区役所が行うべきではない。

第二に、自衛隊の見学は、あくまで東日本大震災の被災地支援の話を聞いたり、その際に使用された航空機を見学するのが目的としているが、自衛隊の本来任務はあくまで戦闘行為の遂行であり、そのこと抜きの被災地支援の業務だけに限定した基

地見学とはなりえない。小牧基地の輸送機は名古屋高裁で違憲とされたイラクへの海外派兵に使用された経歴もある輸送機である。基地見学は自衛隊のPRの場とならざるを得ない。

第三に、そうした基地見学だからこそ、被災地支援の話を聞くためであっても自衛隊からは、参加者の住所・氏名・年齢などの提供が求められており、個人情報の提供が前提の企画となっていることである。自衛隊の隊員募集に利用されることも危惧される。

第四に、広報なごや中村区版にも、子ども会などに配布されたチラシにも、被災地支援の話を聞くなどの行事目的や、安心・安全快適なまちづくり協議会の名前は一言も出てこず、単なる自衛隊基地の見学を中村区役所が企画したようにしか市民には見えないことである。これでは区役所が自衛隊の広報業務を担っているとは思えない。

日本国憲法に関する微妙な問題を有する自衛隊について、その基地見学を、社会的な判断力を身につける途上である小・中学生向けに企画することがどんな問題をはらんでいるのか、何も考慮しない行事を企画し広報した今回の事態は、区役所職員の憲法に対する問題認識があまりにも希薄であるときびしく指摘せざるを得ない。

以上、この行事の企画と広報について、きびしく抗議するものである。